レジメン登録フォーマット

申請年月日		使用開始日			
登録診療科	消化器内科・外科	申請医師		化学療法委員会承認年月	平成　　年　　月
レジメン名	ベクティビックス+mFOLFOX6				
疾患名	大腸がん	適応の備考	CVポート		
適応分類	進行再発				
1コース日数	14　日間	総コース数	コース	催吐性リスク	中等度
抗がん剤投与量・投与日	ベクティビックス6mg/kg　day1、オキサリプラチン85mg/㎡day1、5－FU400mg/㎡day1、5－FU2400mg/㎡day1(46時間持続)				

治療スケジュール　・　投与日程（投与日は●）　(day)

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量		投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	主ルート	生食20mL	1	本 / body		●													
	中心静脈注射																		
				/															
2	主ルート	生食100mL	1	本 / body															
	中心静脈注射	ベクティビックス	6	mg / kg	60 分	●													
				/															
3	主ルート	ｸﾞﾗﾆｾﾄﾛﾝ注ﾊﾞｯｸﾞ1mg/50mL	1	本 / body	30 分	●													
	中心静脈注射	ﾃﾞｷｻｰﾄ注射液6.6mg/2ml	1	本 / body		●													
		ﾃﾞｷｻｰﾄ注射液1.65mg/0.5mL	2	本 / body		●													
				/															
4	主ルート	5%ブドウ糖液250mL	1	本 / body	2 時間	●													
	中心静脈注射	オキサリプラチン	85	mg / ㎡		●													
				/															
	Rp4とRp5を同時に投与開始する。																		
5	側管	5%ブドウ糖液250mL	1	本 / body	2 時間	●													
	中心静脈注射	レボホリナート	200	mg / ㎡		●													
	Rp4とRp5を同時に投与開始する。																		
6	側管	生食50mL	1	本 / body	5 分	●													
	中心静脈注射	5-FU	400	mg / ㎡		●													
	点滴速度：全開で																		
7	主ルート	生食100mL	1	本 / body	46 時間	●													
	中心静脈注射	5-FU	2400	mg / ㎡		●													
		ｲﾝﾌｭｰｻﾞｰﾎﾟﾝﾌﾟ使用																	
	希釈後の液量を総量100mLとなるよう調製する																		
8				/															
	経口投与	デカドロン錠	8	mg / body			●	●	●										
				/															
	分2　朝昼食後																		

※並行して投与する場合は、コメントを入力する。（例：Rp2とRp3を同時に投与開始する。）

【投与上の注意】

Rp4とRp5を同時に投与開始する。
穿刺時に逆血を確認し、ポートの通過を確認すること
day4のデカドロン錠は、状況に応じて投与の可否を選択できる
day1のデキサート注は、6.6mgでもよい
デキサメタゾンを積極的に使用できない場合は、デキサメタゾンday2～4の代わりに5HT3拮抗薬day2～4を追加する
ベクティビックス：投与時はインラインフィルター（0．2または0．22μm）を使用すること。投与前後には、ラインを生食でフラッシュする。
ベクティビックス：希釈は生食のみ。総液量を100mLに調製。（1回量が1000mgを超える場合には、全量が約150mLとなるように調製）
ベクティビックス：最終濃度として、10mg/mLを超えない。
ベクティビックス：投与には60分以上かけること。（1回量が1000mgを超える場合は90分以上かけること）
ベクティビックス：希釈後6時間以内に使用する。
オキサリプラチン：希釈は5%ブドウ糖液のみ。
Rp7）5－FU注は、インフューザーポンプを使用して投与する。